

彙報

哲學倫學會例會

二月二十三日學生集會所に於て開催す。西田朝永藤井三教授學生等二十餘名參會す。右の講演あり。

一、第一倫理學命題の新實在論的基礎付け 宮村美也君
二、虛點に就て 西内理科教授

右の中宮村君はラッセル、モアア等の説を基礎として純客觀的に「ある事は善なり」と云ふ命題の確實性の成立し得ることを論ず。西内教授は von Staudt の定義に従つて虛點の意味を説かる。

心理學讀書會

二月二十一日午後三時より實驗室に於て開催。

○モンテソリ！女史の新著に就て 野上教授

モンテソリ！女史の新著

○The advanced Montessori Method: Spontaneous Activity in Education

○The advanced Montessori Method: Montessori Elementary Material

の二つに關し其の内容を詳細に紹介せられたり。

教育學會例會

二月廿六日午後七時より大學々生集會場に於て開會す。小西教授、松山學士外學生拾四名出席す。左の如き講演あり。

一、教育學考 十時 進君

十時氏は現今教育學研究上に於て學としての進歩稍々遅きが如きを慨き、そは主として科學的研究の徹底せざる爲めなるべしと斷じ、氏獨特の哲學的立脚地に立ちて根本的の疑惑を解き、新たな見地より科學としての教育學を提唱し建設せんとせり。氏は先づ「教育學を徹底せしめんとせば第一に教育現象、第二現象觀察に當り用ふべき方法の研究に止らず、更に第三之が原理の考察を加へざるべからず」と論じ、時間の都合上茲には主として第二の問題に限り講究すべしと前提し、先づ從來の教育學の缺陷を指摘し、殊に理想論及方法論のみにては未だ十分と認め難く、更に理想論の前に人性論を加ふべく、かくてこそ初めて完成せる教育學の存在を見るべしと論じ、尙進みて現今斯學の進歩の遅々たる理由を述べ「教育現象の複雑、他科學に依存する必要多きこと、並に科學的研究の不徹底等は之か主因をなす、他科學に後れざらん爲めには、學として鮮明なる自己目的を確立し、自由研究の領域を廣め、實際的應用の方面に煩はされて其の研究の進路を妨碍せらるべからず、即ち第一教育事實の奴隸となることなく一意研究の徹底を期すべく、第二規範學たるを避けあくまで説明學として終始すべく、第三科學としての教育學は之を教育哲學及び教育政策學と明かに區別して旗幟の鮮明を主とせざるべからず」と主張し、之を小西教授の諸著の論述と比較し、更に教育學と他の學問との關係に及び、基礎學補助學の區別を論じ、次で其の分類に及び、從來行

はれたる二三分類法の論駁をなし、自ら三種の分類標準を掲げて被教育者の特質による兒童中心主義の分類に賛同したり。最後に氏は、教育學の系統組織論に及び『從來は教育學を規範學と見る傾多かりし結果、其の組織上にも教育者の理論的信仰の順序に盲従し全然非科學的に流れ且つ發生的見解主觀的方法に囚はれ教育學と言はんよりは寧ろ教育論なり』と進窮し、茲に大體氏の豫定せる組織に及び、第一序論、第二被教育者の分析的的研究、第三教育者の研究、第四教育者及被教育者の相互關係を説き、教育理想論應用論は之を教育哲學並に教育政策學に譲らざる可らずと高調し、茲に科學としての教育學はミユッセン(Miessen)の學、教育哲學はゾルレン(Gallien)の學、應用方面は之を教育政策學なりと定義し、尙本能論其他は時間の都合上之を省略したり。講演の後小西博士及會員の批評討究に入りしが、問題の重要にして多岐に亘れる爲め各方面の疑惑を惹起したるが如きも、時間の足らざりし爲め左の數點につき大體の討究を行ひたるにすぎず。

一、教育的事業即ち教育者と被教育者の相互作用人格的關係は他の科學の如くすべて説明學的に取扱はるべきか。二、氏の所謂科學としての教育學は目的及理想の問題に觸れ得べきか。三、心理學生理學等の取扱ふべき事實材料を除きさらば氏の所謂教育科學にて取扱ふべき研究對象は如何になるべきか。要するに教育の進歩は諸科學の進歩と教育事實の科學的取扱とに依屬すること多大なるべきも教育は是等を離れ、否是等を超越し、人としての相互關係なれば教育學は理想實際の兩方面を離れては十分の研究をなし得べからず、心理學が精神現象を單なる事實として理想論な

くして研究し其の科學としての目的を達成し得べきに反し、教育學は精神と身體とよりなれる「個人」全體を研究の對象として取扱ひ、茲に人格と人格との關係生ずるものなるが故に單に説明にては足らず、其以外に體驗若くは規範の問題に亘るべく、否寧ろ斯學の眞の領分は前者にあらずして、却て後者にあらざるかも考へらる。更に研究を要すべきも吾人は十時氏が一意此の根本問題に精進し新生面を拓かんとせる熱烈なる意氣に感ぜざるを得ず。

印度哲學會

二月二十六日(火)午後六時より文科第九教室に於て例會を開き、西野文學士は「宗教意識の民主的傾向」に就て論述せられ、次で楠文學士は「西藏の傳説」と題し、(一)西藏の開闢説に就ては(イ)王家系統の傳説、(ロ)人民即ち西藏種起原に關する傳説とに分ちて之を述べ、(二)佛教最初の輸入に關する傳説に進み、歷史上言語學上種々興味ある資料を提供して説明せられたり。尙(三)須彌山に關する傳説は時間の都合上之を聽くを得ざりしは大に遺憾とする所なりき。來會者、松本教授を始め羽溪、赤松、宇野、原、藤井、鳥越、手島、宮城、杉原、本田各學士、學生その他二十餘名。

印度哲學讀書會

第一回例會 二月二十八日(木)午後六時より學生集會場に於て。

一、大佛頂陀羅尼の研究

手島、宮城、鳥越、杉原、藤崎、大地原、本田の諸氏出席。

第二回例會 三月五日(火)同時同所に於て。

1. Frazer, Literary History of India の紹介及びその批評

手 島文學士

原、宮城、鹽崎、高島、本田の諸氏出席。

寄贈書籍雜誌

學 文學士松浦一著 東京贊文館。哲學雜誌、思潮、丁酉倫理講演集、心理研究、人性、六合雜誌、東洋哲學、東亞之光、早稻田文學、學校教育、普通教育、小學研究、教育研究、教育界、教育時論、東京教育、兵庫教育、奈良縣教育、靜岡縣教育、滋賀縣教育會雜誌、愛知教育雜誌、都市教育、佐賀縣教育、宮城教育、愛媛教育、山形縣教育、秋田縣教育雜誌。

現代日本人の信仰 文學士飯沼龍遠著 心理學研究會。生命の文

前 目 次

輪廻轉生と解脱	齋藤 唯 信
極限概念としての文化價值	法學博士 左右田 喜一郎
獨逸唯心論に於ける哲學的認識の問題(完結)	文學士 田 邊 元
神秘主義の爲に	故文學士 岡 本 春 彦
彙報 新著紹介	